

2015年5月5日(火・祝) 13:30開演(13:00開場)

会場：浜離宮朝日ホール音楽ホール 全席自由：一般3,500円 ピティナ会員・学生3,000円

結果的に一般3,500円よりも1,000円安くなり、全席自由ですから早く行けば特等席でご鑑賞いただけます。公演の詳細はこちら→ <http://www.piano.or.jp/concert/yp/10s/vol118/>

阪田知樹のエッセイ連載が更新されましたので、併せてお読みください。↓

http://jp.yamaha.com/sp/products/musical-instruments/keyboards/pianist-lounge/column/sakata_diary/
割引チケットは、次のアドレスに、お名前、枚数、ご連絡先を明記してお申込みください。
crescendsubito-576sacra@yahoo.co.jp

▼お薦め公演：ヴィヴァルディ《メッセニアの神託》日本初演(2月28日/3月1日)▼

ロッシェニ作品ではありませんが、ロッシェニ・ファンに絶対お薦めの公演、ヴィヴァルディ《メッセニアの神託》日本初演があります。

◎ヴィヴァルディ《メッセニアの神託》(パスティッチョ・オペラ、ウィーン版)日本初演

期日 2015年2月28日(土)/3月1日(日) 15:00開演

両日共に14:15よりピオンディによるプレトークあり

会場 神奈川県立音楽堂

全席指定 S席12,000円、A席11,000円、B席10,000円、学生席(24歳以下)8,000円

出演 ファビオ・ピオンディ(音楽監督・ヴァイオリン)/エウローパ・ガランテ、演出：彌勒忠史

マグヌス・スタヴラン、マリアンヌ・キーランド、ヴィヴィカ・ジュノー、マリーナ・デ・リソ、ユリア・レージネヴァ、フランツィスカ・ゴッドヴァルト、マルティナ・ベッリ

ピオンディが再構成したヴィヴァルディのパスティッチョ・オペラ《メッセニアの神託》ウィーン版(1742年)の日本初演です。ピオンディ&エウローパ・ガランテというだけで観る価値がありますが、筆者一押しユリア・レージネヴァの素晴らしい声と超絶技巧が聴けるのですからロッシェニ・ファンは見逃せません。そう、2008年8月ROFのフローレス特別リサイタルに18歳でゲスト出演した、あの天才少女です。その後も順調に成長し、25歳の現在すでに世界のトップスターの仲間入りをしています。

公演詳細はこちら→ <http://www.kanagawa-ongakudo.com/detail?id=32550>

特設サイトはこちら→ <http://www.kanagawa-ongakudo.com/messenia/>



なお、ほぼ同じメンバーによる全曲CDも発売されています(Virgin Classics VCS6025472 CD2枚組)。

▼3月のロッシェニ・オペラ放送▼

2015年3月の放送予定です。ロッシェニ作品はクラシカ・ジャパンの2本だけです。

◎《ブルスキーノ氏》2012年ROF(再放送。3月10~14、16日放送)

◎《ギョーム・テル》2013年ROF(再放送。3月24~28、30日放送)

クラシカ・ジャパンの放送詳細はこちら↓

http://www.classica-jp.com/program/genre.php?list_year_month=201503&genre_id=2

(2015年2月25日 水谷彰良)



◆ガゼッタ第92号◆

ガゼッタ第92号をお届けします。

本号は、「新譜CD：ロッシェニ・ピアノ曲全集の第7集発売!」、「ROF第3回《ランスへの旅》プログラム表紙デザイン・コンクール開催!」、「《メッセニアの神託》と新国立劇場研修所《結婚手形》《なりゆき泥棒》の簡単な感想」をお届けします(最後にオマケ情報あり)。

3月8日の例会案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

3月29日、日本ロッシェニ協会演奏会のご案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/concert.html>

なお、協会ホームページ「オペラ以外のロッシェニ作品解説」の頁に「ロッシェニの器楽・管弦楽曲 作品解

説」を設けて最初の10曲の解説を掲載、「ロッシーニ図像学」の頁に「27歳のロッシーニの肖像」「30歳のロッシーニの肖像」「1862年刊のロッシーニ伝の肖像」「ロッシーニの写真、カルジャ撮影」「1865年作成のロッシーニの肖像」を掲載しました(2月18日&25日アップ)。

「オペラ以外のロッシーニ作品解説」の頁はこちら→ <http://societarossiniana.jp/otherworks.html>

「ロッシーニ図像学」の頁はこちら→ <http://societarossiniana.jp/portrait.html>

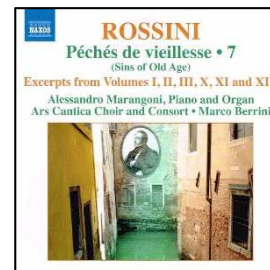
なお、1月のHPへのアップは更新情報からご覧ください→ <http://societarossiniana.jp/>

▼新譜 CD：ロッシーニ・ピアノ曲全集の第7集発売！▼

◎Rossini: Complete Piano Music・7 (Alessandro Marangoni,pf&org.,Ars Cantica Consort ecc.)

ロッシーニ・ピアノ曲全集、第7集(《老いの過ち》第7集)

《老いの過ち》第1巻より「ゴンドラの船頭たち」「散歩」、第2巻より「新年に乾杯」「クリスマス夜の夜」「民主的な獵師の合唱」、第3巻より「合唱(マイアペーアへの葬送歌)」「アヴェ・マリア」「ティタンの歌」「祈り」「カンテムス」「許婚者たちの別れ」、第10巻より「冗談前奏曲」「三全音でどうぞ」「ちょっとした考え」「小奇想曲」、第11巻より「フーガの純粹さ」「めでたし処女マリアよ」、第14巻より「皇帝万歳」「夕暮れ時には」「ヴェネツィア女」「乾杯」。他に「アンダンティーノ・モツ」世界初録音を含む全22曲(順不同)。



アレッサンドロ・マランゴニ(ピアノ&オルガン)、マルコ・ベッリーニ指揮アルス・カンティカ・コンソート、アルス・カンティカ合唱団

録音：2013年9月イヴレア [Naxos 8.573292] (海外盤)

アレッサンドロ・マランゴニによるロッシーニ・ピアノ曲全集の第7集です。あっと驚くのは全22曲のうち14曲が声楽曲であること…それじゃピアノ曲全集じゃないよね…と言いたくなりますが、そこにこのシリーズの矛盾があります。タイトルが「ピアノ曲全集」なのに、いつも同じ大きさで副題に「《老いの過ち》」とあるので、ピアノ曲は《老いの過ち》以外の曲があり、《老いの過ち》の3割は声楽曲だから両立するはずがないのに…

ま、そこは大目に見て、マランゴニの意欲をかいまみましょう。なぜならこの第7集がこれまでで一番魅力的で、三重唱以上のアンサンブルと合唱曲を選んでからです。曲を全部知っている筆者も、今回あらためて「いい曲だなあ」と再認識した楽曲がありました。

アルス・カンティカ・コンソートの5人の歌手が上手じゃないのが玉に瑕ですが、普段聴けない声楽曲とピアノ曲を楽しめるので買って損はありません。オルガン伴奏(アヴェ・マリア)、実にいい曲です。

▼ROF第3回《ランスへの旅》プログラム表紙デザイン・コンクール開催！▼

2月25日、ROFサイトに「III edizione del Concorso Il tuo Viaggio.」と題した公募が掲載されました。直訳すると「第3回《君の旅》コンクール」ですが、それではわけが判らないので内容に即して「第3回《ランスへの旅》プログラム表紙デザイン・コンクール」としました。これはROFが毎年行う若者公演《ランスへの旅》を対象にしたコンクールで、2013年の第1回から毎年行われています。

デザイン系のロッシーニ・ファンがいたら、応募してみてください。

締め切りは6月20日。コンクールの詳細と応募要項はROFサイトをご覧ください。

イタリア語版はこちら→ <http://www.rossinioperafestival.it/?lang=ita&IDC=506&ID=640>

英語版はこちら→ <http://www.rossinioperafestival.it/?lang=eng&IDC=506&ID=640>

▼《メッセニアの神託》と新国立劇場研修所《結婚手形》《なりゆき泥棒》の簡単な感想▼

この『ガゼッタ』は日本ロッシーニ協会の会報も兼ねたメールマガジンで、個人のブログではありませんので、毎回情報発信を中心に執筆しています。ですからお薦め公演を記してもとくに感想を書かずにきましたが、今回は例外とさせていただきます。

その一つが前号(第91号。2月25日配信)にお薦めしたヴィヴァルディ《メッセニアの神託》日本初演です(2月28日&3月1日、神奈川県立音楽堂)。3月1日に観劇しましたが、予想通りたいへん素晴らしい公演でした。歌手も全員見事で、なかでもレージネヴァによる第2幕のアリア「私は船のように」、ジュノーによる第3幕のアリア「妻よ、私を知らぬのか」が絶品でした(どちらもヴィヴァルディの曲ではありませんが…)。

ピオンディ&エウローバ・ガランテも、いつもながら素晴らしい演奏です。加えて彌勒忠史の演出が日本の意匠を抽象化して示し、デフォルメした和装のセンスも大変良かったです。会場に大勢のロッシーニ仲間がいて、「メルマガを読んできました」という人も。

これに対し、「歌手は若い研修生ばかりですが、水準の高い公演になるものと思います」と第90号にお薦めした新国立劇場オペラ研修所公演《結婚手形》《なりゆき泥棒》(2月20~22日、新国立劇場中劇場)には、困った点がありました(最終日に観劇)。「指揮者のテンポが遅く、音楽をつまらなく退屈にした」とは《結婚手形》の後に耳にした感想で、私やロッシーニ・ファンのみならず、ロッシーニに関心のない人もそう感じたようです。

《なりゆき泥棒》は劇と音楽に進歩があつて退屈しませんでした。フィナーレのテンポ処理にゲンナリ。ま、

テンポは指揮者の裁量ですからとやかく言うつもりはありませんが…

私が困ったのは、アリアの定型的な終結部にある音楽をまったく歌わない1～2小節の空白です。それも1人や2人でなく、ソリスト全員がそんな風でした。これは20世紀ヴェルディ歌唱の悪しき演奏慣習にすぎず、ロッシーニとその時代様式にも反しています。ヴァリアツィオーネの用法にも問題がありましたが、ともあれ無意味に歌わない部分を勝手に設けるのはアウトです。ロッシーニ仲間から「国のやっける教育機関があんな間違いを教えていいのか?」と訊かれました…半世紀前ならまだしも、いまはそういう時代じゃないのに…

誰もが気づく問題を書くのは気が引けますが、教育上良くないことは無視できません。ちなみに《結婚手形》の原語表記を普通名詞の頭大文字に「La Cambiale di Matrimonio」とするのも変。「L'occasione fa il ladro」の方は問題がなく、上下に並べて誰も気づかないのはお粗末ですね…と誰かが言っていました。

それはともあれ、若い研修生がそれぞれ健闘していました。なかでもアルベルト伯爵の小堀勇介くんの美声が際立ち、ベレニーチェ役の清野友香莉さんも難しいアリアをルチアーナ・セッラのヴァージョンを参考にしてがんばって歌いました(でもテクニックはもっと磨かないと!)。どちらもかつて国立音楽大学でオペラ史と大学院の作品研究を教えた時の学生でした…あれから5年、感無量です(笑)。

オマケ情報：7月オペラ・ツアーのパンフレットができました！

「個人のブログではない」と書きながら恐縮ですが、7月に筆者が同行するツアー「チューリヒ・オペラフェスティバル&イタリア名門歌劇場めぐり 9日間」のパンフレットができたので一言。ミラノ・スカラ座のフローレス&クンデ主演《オテッロ》の前後に、チューリヒ歌劇場でフォークト主演《ローエングリン》とダムラウ主演《愛の妙薬》、トリノ王立歌劇場でバッティストーニ指揮《ラ・ボエーム》を観劇します。

宣伝でなく、ミラノに《オテッロ》を見に行くか迷っている方への情報提供とご理解ください。

7月ツアー・パンフのPDF版はこちら↓

http://www.ytk.co.jp/music/0703_2015_ZRH_tanabe/0703_2015_ZRH_tanabe.pdf

郵船トラベルのご案内はこちら→ http://www.ytk.co.jp/music/kaigai_opera_classic/tour/schedule/3414

8月にはペーザロ&ザルトブルク音楽祭ツアーも実施予定です！

(2015年3月5日 水谷彰良)



◆ガゼッタ第93号◆



ガゼッタ第93号をお届けします。

本号は、「3月例会の来場御礼と次回例会(4月26日)のご案内」、「日本ロッシーニ協会演奏会(ROSSINI パリの煌めきとエスプリの中で)近づく!」、「新譜CD:ダントーネ指揮《小ミサ・ソレムニス》発売!」、「ロッシーニ歌劇場管弦楽団」とはこれいかに」をお届けします。

なお、協会ホームページ「オペラの作品解説」の頁に掲載済みの《パルミラのアウレリアーノ》作品解説と《ランスへの旅》作品解説をそれぞれ増補改訂版と差し換え、《新聞》作品解説を新規に掲載しました(3月13日アップ)。

「オペラの作品解説」の頁はこちら→ <http://societarossiniana.jp/archive.opera.html>

3月29日、日本ロッシーニ協会演奏会のご案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/concert.html>

▼3月例会の来場御礼と次回例会(4月26日)のご案内▼

去る3月8日(日)、例会「リヒャルト・シュトラウスのオペラに見るイタリア・オペラ」(講師:広瀬大介)を実施し、36名のご来場をいただきました。R.シュトラウス作品におけるイタリア音楽、モンテヴェルディやヴェルディのオペラからの引用とそのコンセプトについて、懇切丁寧にお話いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

次回例会は4月26日(日)、次のとおり開催します。

題目:《アンナ・ボレーナ》の解析——ドニゼッティのロッシーニ期からロマン派様式への移行

講師:高橋 和恵

日時:2015年4月26日(日)午後1時30分開始、午後4時半ころ終了予定

会場:北沢タウンホール 3F ミーティングルーム(定員72名。下北沢駅より徒歩4分)

地図は <http://kitazawatownhall.jp/map.html>

会員ならびにそのご家族は無料。その他の方は当日1,000円を頂戴します。

内容:

ロッシーニが《ギョーム・テル》を最後にオペラの作曲を止めたのとちょうど入れ替わるかのように、ガエターノ・ドニゼッティは1830年12月に、独自のロマン派的な作風でオペラ《アンナ・ボレーナ》を発表します。新しいロマン派音楽へと移り変わっていく時代の方向転換に関わる、そしてガエターノ・ドニゼッティという作曲家の評価に欠かすことのできない、重要な作品《アンナ・ボレーナ》。その全容と解析、およ

ピロマン派音楽の特徴と概念についてお話しします。また、《アンナ・ボレーナ》のクリティカル版に関する最新情報や、ドニゼッティ歌劇場での最近の《アンナ・ボレーナ》の公演に関するエピソードや映像・録音なども合わせて発表します。
(講師・記)

▼日本ロッシェニ協会演奏会〈ROSSINI パリの煌めきとエスプリの中で〉近づく！▼

3月29日(日)JTホールで開催する日本ロッシェニ協会演奏会〈ROSSINI パリの煌めきとエスプリの中で〉の稽古(ピアノ合わせ)を1月から随時行っています。数日前にも、山口佳子さん、富岡明子さん、中井亮一さんが揃って稽古しましたが、ペーザロでゼツダ先生の薫陶を受けた3人とあつて歌唱とヴァリエーションはお手のもの。助言の必要もなく、筆者はただただ感心して聴き惚れました。

ピアニストの金井紀子さんも手の骨折が快復に向かっており、歌手と共に「心配は花粉症だけ」との状況です。12日発売の『週刊朝日』78頁「Pick up」欄にも取り上げられました。チケット完売の可能性もありますので、お求めはお早めに！演奏会のご案内はこちら→<http://societarossiniana.jp/concert.html>

▼新譜 CD：ダントーネ指揮《小ミサ・ソレムニス》発売！▼

◎Rossini: Petite Messe Solennelle

ロッシェニ：《小ミサ・ソレムニス》(管弦楽伴奏版)

オッターヴィオ・ダントーネ指揮パリ室内管弦楽団、アクサンチュス(合唱団) ユリア・レーズネヴァ(S)、デルフィーヌ・ガルー(A)、マイケル・スパイアーズ(T)、アレクサンドル・ヴィノグラードフ(B)、クリストフ・アンリ(オルガン)

録音：2014年6月パリ Naïve V5409] (CD)



筆者がこれまで実演に接した《小ミサ・ソレムニス [小荘厳ミサ曲]》のベストが昨年8月21日ペーザロのゼツダ指揮であることは、当メルマガ第74号(2014年9月5日配信)に書きました。とはいえ「ソリストはやや小粒」「歌手はともかく」と断った上で、「テンポが速く、何かに憑かれたみたいなの、否、神がかり的な感じ」のゼツダ指揮を最高としたわけです。ところが今回発売されたダントーネ指揮の録音(2014年6月サン=ドニ音楽祭ライブ音源)をいち早く聴き、記憶の中のペーザロ演奏を凌駕する演奏！と驚愕しました。

ソリスト、オケ、合唱団のどれもが素晴らしい…古めかしい演奏しか知らない人には違和感あり、かも知れませんが、これが最先端にして筆者一押しと断言しますので、どうぞお聴きください。タワーレコードは3月20日頃、AMAZONとHMVは3月31日の発売が予告されています。

▼“ロッシェニ歌劇場管弦楽団”とはこれいかに▼

電車や雑誌の広告に“ロッシェニ歌劇場管弦楽団”の文字を見つけて驚いた人も多いことでしょう。筆者もその一人。広告キャッチの「ロッシェニ・オペラフェスティバル専属 ロッシェニ歌劇場管弦楽団、初来日！」を目にし、「そんなのあるかい！」とびっくりしました。

すっかり忘れ、3月11日にWOWOWをつけたら京都コンサートホールの演奏会をライブ放送していました。で、改めて調べ、その正体がG.ロッシェニ交響楽団(Orchestra Sinfonica G. Rossini)と判りました。これはロッシェニ音楽院の卒業生で組織したペーザロ=ウルビーノ県のオーケストラで、ロッシェニ歌劇場のオケではなく…そもそもペーザロのロッシェニ劇場に専属オケは無い…ROFの専属でもありません。G.ロッシェニ交響楽団は2001年ROFに初登場し、2003~05年はロッシェニ以外の作曲家のファルサを伴奏、2006年と2007年はコンサートの伴奏のみで2008年と2009年はROF出演無し…そんなROF専属オケ、あるわけないですね。

2010年以後毎年出演していますが、1987年から毎年出演する(88年を除く)ボローニャ市立劇場管弦楽団の〈一軍オケ〉に対して〈二軍オケ〉であることに変わりはありません。しかも今回「ロッシェニ歌劇場管弦楽団常任指揮者」として同行するダニエーレ・アジマン(Daniele Agiman)は、過去一度もROFでオペラを指揮していません…2013年にヴェルディ・プログラムのコンサートを指揮したのが唯一！

筆者が理解に苦しむのは、「東日本大震災復興支援チャリティーコンサート」という立派な名目があるのに「ロッシェニ・オペラフェスティバル専属 ロッシェニ歌劇場管弦楽団、初来日！」を売り文句にする主催者の姿勢です。名目も不可解。「チャリティーコンサート」の名称は演奏会の売り上げをその目的に沿って寄付する場合に使うものと私は理解していますが、主催者(実行委員会?)のHPにそれらしい文言が無く…私の見落としてなければ、ですが…「祈り」をキーワードに、「被災された人々の一助となるべく、また復興支援を通じた真の国際親善、交流の場を実現したい」と説明されています。

会場には被災地も含まれるので、音楽による心の支援を「チャリティー」と称したのかも知れません。でなければメインがモーツァルト《レクイエム》なのに、前半に《セビーリヤの理髪師》《ラ・チェネレントラ》《アルジェのイタリア女》の序曲という、およそ鎮魂とかけ離れた音楽が含まれることの意味が判りません……《アルジェのイタリア女》序曲は舞台上のアナウンサーが「妻にするならイタリア女がいい！」と宣言して始まり、演奏後には「イタリア人は、女も男も素敵ですね～」みたいな話をしていました。打楽器が絶無の《セビーリヤの理髪師》序曲にもびっくり…ティンパニと大太鼓の奏者がいないではありませんか！(3月11日京都の演奏)。

これが3.11に筆者がライブ放送で見た、「ロッシェニ歌劇場管弦楽団」による「東日本大震災復興支援チャ

詳細は日本オペラ振興会のサイトをご覧ください。

日本オペラ振興会による特設サイトはこちら→ <http://www.iof.or.jp/reims2015/>

▼ROF 総裁マリオッティのエッセイ集『忘れられた美の組曲』（リコルディ社、2014年）▼

◎Gianfranco Mariotti: Suite della bellezza dimenticata (Casa Ricordi srl, Milano, 2014)
135 頁、価格 16 ユーロ。

『忘れられた美の組曲 (Suite della bellezza dimenticata)』と題されたこの本は、昨年 8 月ペーザロで購入した新刊書です。ロッシーニ文献ではなく、ROF 総裁ジャンフランコ・マリオッティのエッセイ集のためメルマガで紹介しませんでした。表紙に ROF 友の会のロゴマークがあり、ここで簡単にふれておきます。

次の三部構成で、17 の文章が掲載されています。

第一部：失われたアーク [聖遺物] を求めて (Parte I - Alla ricerca dell'Arca perduta)

第二部：再発見されたロッシーニ (Il Rossini ritrovato)

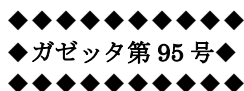
第三部：熱狂に対する徳 (La vertu' contra furore)



基本的に文化論的エッセイですが、第一部の末尾からゼツダ先生の著書への書評と ROF 関連の話が現れ、第二部はロッシーニや ROF の話がメインです。個々の文章の初出出典を示さないなど、もろもろ問題はありますが、ROF の裏話も書かれていますので関心のある人はご覧ください (イタリア語の書籍です)。

本日はこれにて失礼いたします。

(2015年3月25日 水谷彰良)



ガゼッタ第 95 号をお届けします。

はじめに、3月29日の日本ロッシーニ協会演奏会「ROSSINI パリの煌めきとエスプリの中で」(JT アートホール アフィニス) にご来場いただきました皆様と、会員の皆様に御礼申し上げます。おかげさまで大好評のうちに終えることができました。

本号は、「日本ロッシーニ協会演奏会への来場御礼」、「今月はロッシーニの CD と DVD が目白押し!」、「ローザンヌ歌劇場でシー・イージェが大活躍!」、「日本のロッシーニ上演と演奏会の情報求む!」をお届けします。なお、協会ホームページのロッシーニ図像学の頁に「75歳のロッシーニの肖像」、ロッシーニ自筆書簡の頁にロッシーニの書簡 2 通 (1866年5月6日と8月1日付) を掲載しました (4月4日アップ)。

「ロッシーニ図像学」の頁はこちら→ <http://societarossiniana.jp/portrait.html>

「ロッシーニ自筆書簡」の頁はこちら→ <http://societarossiniana.jp/rossiniletters.html>

4月26日の例会案内はこちら→ <http://societarossiniana.jp/meeting.html>

▼日本ロッシーニ協会演奏会への来場御礼▼

去る3月29日、JT アートホール アフィニスにて、日本ロッシーニ協会演奏会「ROSSINI パリの煌めきとエスプリの中で」を開催し、215名のご来場をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。お客さまから「楽しかった」「とてもいい演奏会だった」とお褒めいただき、主催者としてもひと安心です。

アンコールはロッシーニの歌曲〈スペインのカンツォネッタ Canzonetta Spagnuola〉。3人の歌手が3種のテキスト……オリジナルのスペイン語、そのイタリア語訳、メタスタージオの〈黙って嘆こう〉ヴァージョン……で歌いました。来年は日本ロッシーニ協会が活動を開始して20年目を迎えます。これをどのような形で企画に反映するか思案中です。良いアイデアがありましたらご教示ください。

当日配布したプログラムはこちら (PDF 版) → <http://societarossiniana.jp/concert-program.03292015.pdf>

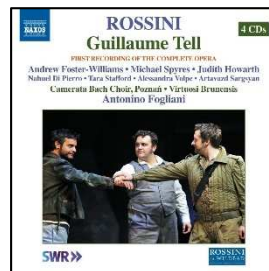
▼今月はロッシーニの CD と DVD が目白押し! ▼

今月……正確には3月末から4月中に続々とロッシーニ作品のディスクが発売されます。CD は《ギョーム・テル》(2013年7月ヴィルトバートのロッシーニ上演ライブ。下記)、DVD/BD は次の3種です。

- ・《セミラーミデ》(2011年フランダース歌劇場上演。Dynamic、DVD2枚組/BD)
- ・《ギョーム・テル》(2013年8月ロッシーニ・オペラ・フェスティバル上演。Decca、DVD2枚組/BD)
- ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバル・コレクション (デメトリオとポリーピオ) 《シジスモンド》《ブルグントのアダライデ》《オーリー伯爵》のボックスセット。Arthaus Musik BD4枚セット/DVD6枚セット。4点とも単独に既発売)

すべて輸入盤で、価格と入荷時期はサイトによって異なりますので、AMAZON/タワーレコード/HMV その他をご参照ください。ここでは発売済の《ギヨーム・テル》CDについて簡単に紹介しておきます。

◎ロッシーニ：《ギヨーム・テル》全曲（オリジナル・ヴァージョンの世界初録音）
アントニーノ・フォリアーニ指揮ヴィルトゥオーゾ・ブルネンシス、バツハ室内 cho.
ジュディス・ハワース(S/マティルド), ターラ・スタッフォード(Ms/ジェミ), ア
レクサンドラ・ヴォルペ(Ms/エドヴィージュ), マイケル・スパイアーズ(T/アルノ
ール), アンドリュー・フォスター=ウィリアムズ(Br/ギヨーム・テル), ラッファエ
レ・ファッチョラ(B/ゲスレル)ほか
録音：2013年7月ヴィルトパート Naxos 8660363-66(CD4枚組)



一昨年7月のヴィルトパートのロッシーニ音楽祭上演を音源とするCD4枚組です。初演前のカットや変更を復活してロッシーニのオリジナル・ヴァージョンを世界初演奏した点に特色があり、付録にカットされたバレエ曲や合唱のオリジナル・ヴァージョン、1831年3幕縮小版の新フィナーレも収録されています。なんともマニアックなアプローチですが、これが見事な成果を挙げています。

歌手はハワースとスパイアーズ以外はイマイチで、スパイアーズも高音の力強さが足りません。でもその辺に拘泥せず全体を聴き進めれば、ロッシーニの音楽の素晴らしさにただただ圧倒されます（とりわけ第3幕フィナーレが出色！）。第4幕フィナーレも、初校の方が現行版よりも演劇的にも優れていたことが判ります。付録の3幕縮小版の新フィナーレではストレッタで序曲の行進曲が歌われ、これはイタリア語改作《ヴァッラーチェ》のヴァージョンを知っていましたが、3幕縮小版のそれが当時の観客への妥協の産物と再認識しました。

上演ライブなのでマイクは舞台上の雑音や足音も拾い、第4幕アルノールのアリアのカバレッタでは合唱団の隊列が足を踏み鳴らす音が臨場感を増しています。確かな情報ではありませんが、上演映像を発売するとの話も伝え聞いており、楽しみです。

▼ローザンヌ歌劇場でシー・イージェが大活躍！▼

3月にローザンヌ歌劇場で《タンクレーディ》が上演されました（3月20～29日、5回公演。指揮：オッターヴィオ・ダントーネ、演出：エミーリオ・サージ、タンクレーディ：アンナ・ボニタティプス、アメナイデ：ジェシカ・プラット）。

これを観劇したジュネーブ在住の会員・角岡正毅さんより、アルジェリオ役で出演したシー・イージェ (Yijie Shi) さんが「素晴らしい熱唱」を繰り広げ、「ペーサロではコミカルな役柄を、洒脱に歌いこなしていたので、そのイメージが強く、どんな風にこの役を演じるのかと思っていましたが、大変演技に貫録もあり、歌声も深みが増し、観衆にも大受けしていました。とても良かったので、合計3回観ましたが、後の回になるほど、周りとの調和もより良くなっていきました」との感想を頂戴しました（3月31日付の私信にて）。

シー君の活躍がうれしく勝手に転載しましたが、角岡さんには今後も海外上演の感想を短信の形でお寄せいただくよう、この場を借りてお願い致します。

▼日本のロッシーニ上演と演奏会の情報求む！▼

日本で毎年さまざまなロッシーニ作品の上演や演奏が行われていることは、昨年から日本ロッシーニ協会紀要『ロッシニアーナ』に連載を開始した柳川文雄・編「日本におけるロッシーニ作品の主な上演記録」でお判りいただけたと思います（2013年度分は第34号、その補遺と2014年度分は第35号に掲載）。これは編者の柳川さんが独自に情報を収集して2013年から年次別に作成し、遺漏を文化庁の『日本のオペラ年鑑』で追補するとともに、後日日本ロッシーニ協会HPへの完全版の掲載を予定しています（2013度の完全版は今月末に掲載予定）。

読者の中には演奏者が日本ロッシーニ協会に自発的に情報を寄せていると思う人もいるでしょうが、全然そんなことはありません。不思議なことに、会員なのに自分が関係する上演や演奏をちっとも寄せてくれないケースがあり、公演後に知ることもしばしばです。

中にはネットでもほとんど宣伝せず、仲間内だけで行う公演もあり、ロッシーニをやった実績を残したいけれど耳の肥えたロッシーニ・ファンには聴いてほしくないのかなあ、とってしまいます。偶然筆者が情報を目にしても、主催者がきちんと宣伝しない場合はメルマガに取り上げないようにしています。

そこで、メルマガの読者、会員の歌手や演奏者をお願いなのですが、今後はロッシーニの上演と演奏に関する情報を随時協会にお寄せいただけないでしょうか？ そうすればメルマガや協会フェイスブックで告知・宣伝でき、主催者と出演者にもプラスになると思うのですが……

（2015年4月5日 水谷彰良）